

自治会初太陽光発電事業による地域経済循環の実現(丹波市)

(1) 事業概要

全国初 自治会が事業主体となった太陽光発電事業は、丹波市春日町国領の山王自治会で、2012(平成24)年4月からスタートした。同自治会は、兵庫県の東端、県境を境に京都府福知山と隣接する地域で、平成の合併により丹波市となった。

他の地域と同様、山王自治会も過疎化に悩むわずか12軒の集落だが、自立的・持続的な自治会・まちづくりのために、様々な取り組みを行ってきた。そのひとつが本事業で、電力の固定価格制度の導入によって、安定的な事業収益・キャッシュフローが生まれ、自治会における運営資金の安定化につながっている。

1800万円の設備投資の資金は、自治会資金と借入金により調達している。借入金額800万円は10年間で返済予定となっている。地域の主体的な取り組みに、時代の流れが追い付いた事例であり、身の丈に合った自立的・自主的な地域の取り組みとして高く評価される。

(2) 取り組みの経緯

本事業に取り組むきっかけは、月5千円(1軒あたり)の山王自治会費と所属する国領自治会に納める年1万円の会費(同)負担を軽減し、山王自治会の持続的な運営と同地域を少しでも住みやすく、将来の世代が豊かに、安心して暮らせるようにしようという思いが出発点であった。

自治会が所有する空き地(低未未利用地)に約1700万円をかけて太陽光パネルを設置。1キロワット時42円で20年間、関西電力に売電する計画で、年間185万円の売電収益が見込まれ、現在はほぼ予定通りの発電実績・運用となっている。

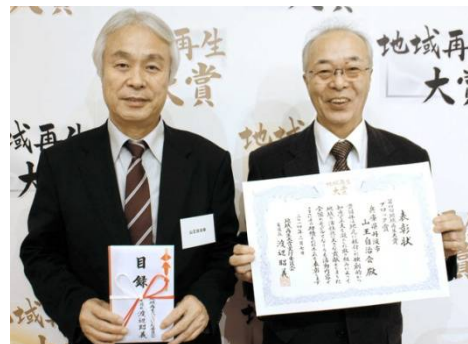
既に山王自治会費は半額にしており、いずれ無料にする。また、国領自治会への会費は13年度から無料になった。この取り組みをきっかけとして、社会的な注目が集まったが、自治会にとっては「意外な反応」であり、当事者としての戸惑いもある。2014(平成26)年2月には、第4回地域再生大賞(近畿ブロック賞)を受賞した。

本事業を含め、地域が如何に生き残るのか、豊かな暮らし・地域を守っていくのか、ということを中心に、今後も多様な活動を展開していく予定となっている。

■ 事業の主な内容

(出典)筆者作成、神戸新聞、北近畿太陽光発電普及促進協会より

項目	内容
事業名	山王自治会太陽光発電事業
事業者	丹波市春日町国領山王自治会 (丹波市:人口68,236人)
事業内容	全国初 自治会が事業主体となった太陽光発電事業 ・地域の資金(自己資金・借入)による資金調達 ・自治会の低未利用の土地を活用した太陽光発電設備の設置 ・売電収益による自治会運営費用の捻出(自治会費等の軽減) ・20年間のキャッシュフローによる持続的な活動基盤の形成
設備概要	・発電規模 42kw ・年間発電予想量 44,100kw ・年間予想売電収入 1,852,200円 (全量買い取り 42円/kw 期間20年)
収益活用	・売電収入の活用内容 借入金の返済(10年返済:800万円) ・自治会運営経費の負担軽減(約1/2に) ・将来的は、負担0を目指す
表彰	第4回地域再生大賞(近畿ブロック賞)受賞(2014(平成26年)2月)



http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201402/p1_0006693274.shtml



http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201401/p1_0006667454.shtml

(写真:神戸新聞HP 2014年02月15日閲覧)